

それで、天国に準ずる場所として、空中から地上をコントロールすべく本陣を張っているのです。サタンのコントロールセンターは空中だと聖書は語っています。



空中が持っている魔力的力について、非常に鋭い論評をした作家がいます。山本七平（やまもと しちへい/1921-1991）という人です。

『空気の研究』を書いて一躍注目を浴びました。

これは空気の組成—78%が窒素で・21%が酸素で・残り1%が様々な元素です—みたいなことの研究ではありません。その空気じゃないんです。彼が問題にしている空気は「空気を読む」。つまり雰囲気です。

会社でそこそこのポジションにいる方なら、会議でこんな事を経験したことないですか。どう考えても論理的な正しい判断とは思えないけど、その会議をある種の空気が支配していて、その空気に逆らうことができず、みんなで間違っただけの判断を選び取ってしまう。

今回中国で共産党大会があり、習近平が3期連続の国家主席に選ばれましたが、あれなんか完全に空気による支配です。

人は論理的な結論よりも、空気による支配を受けて、普通に考えたら選ぶはずがないようなことを選んでしまう。

「戦艦大和が沈没することが分かっているながら、なぜ日本海軍はその選択をしたのか。空気だ」と山本七平は言ってるんですね。

山本七平さんはクリスチャンです。この方の聖書観と私の聖書観は違います。

しかし、彼は十字架とキリストの復活を信じていました。聖書に精通していました。

精通しているので、日本文化に特有な、なぜ日本人が雰囲気呑まれやすいのか、流されやすいのか、弱いのかについて論評しているのです。非常に優れた著作だと思いました。

空気・雰囲気・空中を支配しているもの、目には見えないサタンの牙城に、神は7番目の鉢の中身を注いだ。これは“艱難時代最後の裁きは、サタンにとどめを刺す裁きである”ということです。

すると大きな声が神殿の中から、御座から出て、「事は成就した」と言った。

神殿は当時エルサレムにあった神殿ではありません。

神殿の中から、御座から。神殿と神が座しておられる王座をイコールで結んでいるからです。

ここの神殿は天国の神殿。天にある、神がおられる聖所のこと。なので、大きな声が神殿の中から、御座から出て、「事は成就した」と言った、その大きな声の持ち主は神です。

少し前にお話した黙示録 15章 8節で、この時の神殿は、神以外立ち入り禁止状態になっているからです。

黙示録 15章

8 (天国の) 神殿は、神の栄光とその御力から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその神殿に入ることができなかった。

神以外立ち入り禁止の天国の神殿から大きな声が出たのだから、その持ち主は神なのです。

大きな声で何と言ったのでしょうか。「事は成就した。」

事は「艱難時代に天から下るすべての裁きが全部終わった。成就した。」

「この7番目の裁きの先はもうありません。これで打ち止めです」という意味です。

では、**7番目の鉢の裁き**は何でしょうか。超巨大地震です。

黙示録 16 章

18 そして稲妻がひらめき、雷鳴がとどろき、大きな地震が起こった。

これは人間が地上に現れて以来、いまだかつてなかったほどの、大きな強い地震であった。

今回は、この超巨大地震の原因と結果について解説します。

聖書を正確に理解するためには、どうしてもあっちこっちの聖書の箇所を引用することになって、ある意味 煩雑に思うかもしれませんが、ごうちゃんねるは出来るだけ聖書的でありたいと考えていますのでご了承ください。そして、これからもお付き合い下さい。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお目にかかりましょう。

皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆引用：新日本聖書刊行会「聖書 新改訳 2017」 いのちのことば社,2017
「空気の研究」 山本七平著 文春文庫,1983